

信仰とは神様に全てゆだねること

おはようございます。今日読まれました福音の内容は、皆様が何回も読まれた箇所だと思いますが、もう一回読みます。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでも私のもとに来なさい。休ませてあげよう。」やはり何回も聞いた箇所ですよ。「今日初めて聞いたと思われる方がいらっしゃいますか？」 沢山聞いたと思います。そしたら、自分は何があってもまずイエス様のところへ行って休もうとしたと思われる方がいらっしゃると自信を持って手を挙げて下さいませんか。幸いに何人かの方がいらっしゃいました。他の方はどうでしょうか？ 自分の知恵ですか？ 頭ですか？ それとも力で解決ですか？ 福音の中でイエス様がおっしゃった全ての真理と言うみ言葉はものすごく単純で簡単です。

「疲れたものは私の処に来て休んでください。私は休ませてあげます」。こういう簡単なみ言葉です。そしてカトリック信者なら誰でもこの言葉はわかっているはずですよ。何か問題が起こった時にこのような姿勢を見せないのは悲しいことだと思います。どう思われているのでしょうか？ イエス様は本当に休ませてくださると思っているのでしょうか？ そうしたらそのようになさって下さい。信仰というものはものすごく単純で簡単です。複雑なものではありません。信仰というものは結局任せることです。「何があってもあなたは私の為に一番いい道を見せて導いて下さると信じます。今いろんな不安に陥っていても私はあなたにゆだねます」。これが生活、自分の生き方になることが信仰ではないでしょうか。

よく考えてください、いろんな聖書のみ言葉を聞きながらここまでできました。その聖書のみ言葉の中で本当に自分の生き方の基準になるみ言葉はいくつくらいありますか？ あったとしてもその基準に合わせて、どのくらい歩んできたでしょうか？ 口だけで信仰について話すのは、若者がよく口にする言葉で“やばい”です。信仰という物は唇ではないのです。まず心から始まれば反応は自然に現れます。私達の共同体の沢山の方々が福音的に生きていることを分かっております。しかしもう一度今日の福音を通して考えてみましょう。私達はみ言葉通りの生き方をしようとかんばってきたでしょうか？ 何か問題が起きたときにみ言葉に頼ろうと思ったでしょうか？

よく考えてみてください。信仰というものは簡単なことです、単純です。イエス様のみ言葉も簡単であり、単純です。今日の福音のように簡単明確にはっきりしています。「行ってもいい、行かなくてもいい、来てもいい、来なくてもいい」のようにあいまいなみ言葉は 1 節もありません。やるべきか、やっちはいけないかをはっきり言っています。そのことを私は理解が出来ませんと言うはずはありません。ただ私達が聖書を読んだり、聞いたりする時、心で聞くとしたら心で見ようとしていたらそれによって全て変わってきます。お願いします。今日のみ言葉とおりのイエス様の所で休んで下さい。イエス様のところに全ての事を置いて下さい。任せて下さい。そうしたら違う結果が体験できると確信します。

2 番目の話は、昨日の夕ミサでもお話したことですけど、自分が深刻に感じた事なので分かち合いたいと思います。人生は劇やドラマだと言われることがあります。しかしその劇やドラマには脚本(シナリオ)がありません。その舞台にはいろんな人や物の関わりがあります。そして役もあります。役の中には、悪役をもっている人も主人公の役をもっている人もいます。今いろんな劇が進行しています。その劇の題目は自分自身の名前をつけたいと思います。例えば、私の場合には“金 大烈(キム デヨル)”という題目の劇が進んでいるわけです。この劇の中で、私金神父は日本の群馬にある太田教会という場所で今日 9 時半のミサに与り説教をしています。その教会には日本人の信者さんを含め、いろんな外国の信者さんがその主人公の話に耳を傾けています。皆様も皆様の名前を掲げた劇を

しているところです。その劇は、改めて申しあげるとシナリオがありません。その劇を演出するのも、脚本書くのも結局主人公であるそれぞれの皆様です。

私が申し上げたいことは、まず各自が主人公であることを悟って頂きたいことです。自分に与えられた人生の主人公は自分だ！ という強い心の確信が必要だと思います。それでわたしが主人公であることがわかったら、その後には良い主人公になろうという努力が必要じゃないでしょうか。結局、劇というものは、必ず終わりがあります。その終わりが悲劇になるか、ハッピーエンディングになるか、それは主人公である私達によって変わります。悲劇の劇は見たくないです。その劇を見ても感動する人もいませんし、逆に気持悪くなります。しかし感動する劇・ドラマを見たら自然に涙が出て清い心になります。その主人公が自分だったらなんという幸せでしょうか。

神様は皆様の名前が付いている劇を見ていらっしゃいます。その劇でいるんな良い御心を表しながら主人公を支えています。しかし主人公である者そのみ旨に気が付いているかどうかは主人公の心がけによって変わります。「いい劇をつくりましょう」。誰かがやってくれるものではないのです。それは自分の中で自分が一番すばらしいと思っている道を歩むことによって変わっていきます。やっぱり人生はドラマです。終わりがいつかはわかりません。だから生きている今、最善を尽くすのです。そしてやりがいを感じるによって周りの人々が一緒に笑顔を見せる。それって最高じゃないですか？

皆様、あなた方は主人公です。ご自分の人生で絶対いなければ出来ない劇の主人公です。その主人公の役割を信仰のうちに果たしましょう。それこそ私達が見ようとする結末じゃないでしょうか。

お願いします。あなた方は神様から主人公として愛されています。周りの人ではありません。周りの人々を幸せにさせる役を持っています。それによって自分も幸せになります。そのすばらしい役(主人公)であることをいつも自覚して下さい。

ありがとうございました。